

2018年度 国際環境工学部 教員評価総括

1 教員評価制度の概要

(1) 目的

国際環境工学部における教員評価制度の目的は、個々の教員の活動目標を明確にし、その達成度を適正に評価することにより、教育研究水準の一層の向上を図り、本学の理念、目的及び社会的使命を達成することを目的としています。

(2) 教員の自己評価

教員評価は、教員の教育活動、研究活動、組織運営活動、社会貢献活動の4領域について、領域ごとに評価項目を設定し、多角的で総合的に評価します。

教員は、教育活動、研究活動、組織運営活動、社会貢献活動の4領域について、年度当初に1年間の活動目標を設定し、翌年度、その活動目標に対する自己評価を行います。

① 活動目標の設定

教員は、活動目標の設定に際し、活動目標の重要度に応じたウエイトを10%単位で合計が100%となるように決定します。なお、ウエイトは教育活動を20%以上とし、研究活動、組織運営活動及び社会貢献活動についてはそれぞれ10%以上としています。また、活動目標設定の際は、教員評価委員会がその内容の確認と助言を行います。

② 活動目標に対する自己評価

教員は、4領域の活動目標ごとにその達成度を評定A、B、Cの3段階で自己評価します。自己評価の基準は次のとおりです。

<活動目標ごとの評価基準及び素点>

達成度		素点
評定	基準	
A	活動目標を十分達成した	3
B	活動目標を概ね達成した	2
C	活動目標を達成できなかった	1

③ 総合評価

自己評価に基づく各領域の得点を算出し、各領域の得点の総和が総合得点となります。この評価総合得点に応じて総合評価の評語A、B、Cが付されます。

《各領域の得点の算出について》

各領域の評定素点（Aは3点、Bは2点、Cは1点）に目標設定時に決定したウエイトの割合を乗じて得た得点です。

< 評価総合得点基準 >

総合得点	達成度	
	評語	基準
2.6以上	A	達成した
2.6未満2.0以上	B	最低限満たすが、十分でない
2.0未満	C	不足である
総合得点 = (活動目標ごとの素点×活動目標のウェイト (%) / 100) の総和		

(3) 教員評価委員会による評価

教員評価委員会評価部会は、教員が作成した4領域に関する自己評価を公平かつ客観的に評価します。ただし、各学科長については国際環境工学部長が評価を行います。

教員評価委員会評価部会及び国際環境工学部長は、各領域において活動目標を超えた顕著な業績があった又は活動目標設定が高度であったにもかかわらず十分達成した場合は、原則として領域毎に学科教員数の2割程度の範囲内でS評価に修正することができます。ただし、特定の領域においてS評価に値する教員が多数の場合、全領域のS評価の総数を超えない範囲で、学科教員数の2割を超えてS評価に修正することができます。

< 活動目標ごとの評価基準及び素点 >

評定	達成度		素点
	基準		
S	目標を超えた顕著な業績があった、又は活動目標設定が高度であったにもかかわらず十分達成した		4
A	活動目標を十分達成した		3
B	活動目標を概ね達成した		2
C	活動目標を達成できなかった		1

< 教員評価委員会における評価・評価総合得点基準 >

総合得点	達成度	
	評語	基準
学科教員数の2割程度	S	十分達成し、かつ、顕著な業績があった
2.6以上	A	達成した
2.6未満2.0以上	B	最低限満たすが、十分でない
2.0未満	C	不足である
総合得点 = (活動目標ごとの素点×活動目標のウェイト (%) / 100) の総和		

2 評価結果

(1) 各領域の評価得点について

国際環境工学部各学科における評価対象人数と各領域の評価得点の平均点は下記のとおりです。

2018年度 各学科における評価対象人数と各領域の評価得点の平均値

項目		エネルギー循環化学科	機械システム工学科	情報システム工学科	建築デザイン学科	環境生命工学科	計
評価対象人数		15人	13人	18人	13人	14人	73人
評価領域	教育	0.8	0.9	0.9	1.0	0.9	0.9
	研究	1.4	1.1	1.0	1.1	1.1	1.1
	組織運営	0.6	0.8	0.8	0.6	0.6	0.7
	社会貢献	0.5	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5
計		3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.2

※ 各領域の評価得点は、小数点以下第2位を四捨五入しています。

※ 学科構成員は2019年4月1日時点（教員評価対象外教員は除く。）。

※ 環境技術研究所教員は関連学科に含む。

評価領域ごとの得点は、各学科教員の素点（教員評価委員会による客観評価）にそれぞれのウェイトを乗じた値（例えば評定Aでウェイトが20%の場合、素点 $3 \times 0.2 = 0.6$ ）を平均したものです。各教員の目標設定とウェイト付けに自由度があるため、個々の教員レベルで見れば領域ごとの評価得点にばらつきがありますが（教員個人の評価の傾向について本総括では省略）、学科及び学部全体の領域別平均値には、一定の傾向が見られます。

まず、評価領域ごとに見ますと、教育及び研究領域の得点が高く、教育と研究を大学における活動の両輪としてバランス良く重視していることが分かります。

学科別に見ますと、4領域の中で、研究の得点が高いエネルギー循環化学科、教育の得点が高い建築デザイン学科、社会貢献の得点が高い環境生命工学科など、それぞれの学科の特色が出ています。また、情報システム工学科では、学内情報基盤整備等への貢献もあり、組織運営の得点が相対的に高くなっています。機械システム工学科において組織運営の得点が高いのは所属教員数が少ないため組織運営のウェイトが高くなっているためと思われます。

最下欄の「計」には4領域の合計値を記載していますが、これは、所属教員の評価総合得点の平均値を意味します。学部全教員の評価総合得点平均値は3.2であり、達成度としては「活動目標を十分達成した」という範囲に入っています。

(2) 総合評価について

国際環境工学部各学科における教員評価の総合評価の結果は次のとおりです。

2018年度 国際環境工学部教員評価総括結果

(単位：人、%)

総合評価 評語	エネルギー 循環化学科		機械システム 工学科		情報メディア 工学科		建築デザイン 学科		環境生命 工学科		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
S	3	20%	2	15%	3	17%	2	15%	2	14%	12	16%
A	12	80%	11	85%	14	78%	11	85%	12	86%	60	82%
B	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	1	1%
C	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	15	100%	13	100%	18	100%	13	100%	14	100%	73	100%

※ 学科構成員は2019年4月1日時点（教員評価対象外教員は除く。）。

※ 環境技術研究所教員は関連学科に含む。

総合評価の結果を見ますと、大部分の教員の評語はS及びAであり、活動目標を十分達成しているといえます。以上のように、国際環境工学部では教員の諸活動がバランスよく行われ、また、教員はその責務を十分果たしていると考えられます。

3 教員評価制度の検証

教員評価は毎年度行われており、評価結果を総合的に分析し、教員に対し適切な指導助言を行うこととされています。さらに、教育研究等の諸活動の改善と一層の向上に役立てるため、教員個人の評価結果は、昇任選考、再任審査、研究費の配分等に反映させています。

また、教員評価制度の実施方法については、教員評価委員会において毎年度検証し、必要に応じて見直しを行っています。今後も各教員の活動の改善に繋がる評価制度を目指していきます。